

平成25年度 研究紀要

か つ ら

第 2 9 集



秋田県立大館桂高等学校

本校の重点目標の一つは、『わかる』授業を『できる』に高める授業の実践である。この目標を達成するために、各教科、各学年、各分掌で努力目標を定め、全職員が日頃から「教師の力量を高める研修」、「授業改善をはかる研修」に努めている。生徒が「わかる」だけでなく「できる」授業にするためには、指導者である教員が魅力ある授業を展開し、生徒の自主的な学習姿勢を引き出すことが大切である。

今年度は、生徒の意欲を引き出すために「**自ら考えさせ やらせてみて 褒めて育てる**」を共通方針とし、次の三つの項目を意識した授業展開の工夫・改善に取り組んでもらった。

**①授業における発問の工夫**

・自分で考え、自分の意見を発表できるような発問の工夫をする。

**②全員参加型の授業展開**

・発問によって触発された自己の意見を述べる場面の工夫をする。

**③意見への肯定的助言**

・述べた意見に対し、次への意欲に繋がるような助言の工夫をする。

この取り組み前後の生徒へのアンケート調査では、すべての項目で評価が高まり、本校の授業改善が少しずつではあるが進んでいると考えている。この取り組みを今後も継続し、さらに充実・発展させていきたい。

ところで、私の手元に、平成22年度に秋田県総合教育センターで「授業の基礎・基本」としてまとめた冊子「**秋田のそごちから**」がある。どちらかと言えば小・中学校の児童・生徒対象の内容であるが、高校用にアレンジして活用できるところも多い。今一度多くの本校教員が、この冊子を活用してくれることを願い、再度「見出し」を確認したい。

**「あ あなたはどのような表情で授業を・・・？」**

・先生は教室の環境です。笑顔でやる気を。

**「き 教師が輝く瞬間も必要です」**

・先生は流石、と思わせます、さりげなく。

**「た 確かな発問が授業を変える」**

・先生は賢く問いかけ、同時に考える間も。

**「の ノート指導は、子どもをよく見ること！」**

・先生はノートを見て一寸助言のスパイスを。

**「そ 相互に啓発する授業を（話し合い、・・・）」**

・先生は話し合い、学び合いをを促す脇役に。

**「こ 子どもの思考の足跡が分かる板書に」**

・先生は黒板をカンバスにして描く芸術家。

**「ち ちゃんと考えを持たせる助言の在り方」**

・先生は考えさせて解決に導く水先案内人。

**「か 活発な発言が本当の理解につながる」**

・先生は積極的に発言できる雰囲気作りも。

**「ら ランダムになんとか教室を・・・？」**

・先生は計画的な机間指導で個々の支援を。

そして、「質問力」を含め積極的に発言する力をつけるために、

**「と 問いを発する子ども」**

を加えて、活用をはかりたいものである。

# 目 次

巻 頭 言

校 長 佐 藤 清 悦

## I 校内授業研修

- 1 平成25年度校内授業研修会 ..... 1  
研究授業学習指導案・協議会の記録
- 2 平成25年度授業アンケート集計結果 ..... 18

## II 教職経験者研修

- 1 高等学校教職10年経験者研修を振り返って  
芸 術 科 成田 洋子 ..... 26
- 2 養護教諭教職5年経験者研修を振り返って  
養 護 教 諭 豊嶋 亜紀子 ..... 29
- 3 高等学校初任者研修を振り返って  
理 科 奈良 紳也 ..... 30

編 集 後 記

# 国語科「現代文」学習指導案

日 時 平成25年10月31日(木) 6校時  
 学 級 普通科3年C組(30名)  
 場 所 3年C組教室  
 指導者 浅野 兄一  
 教科書 高校生の現代文(明治書院)

- 1 単元名 自然と生命(随想)「理由なき喜び」
- 2 目 標 作品を読み、筆者が述べようとしている喜びの本質について理解し、「より深く生きること」について、筆者の考えを理解し、それに対して自分の意見を持つ。
- 3 単元と生徒 女子30名の進学クラスである。落ち着いた授業態度で取り組む生徒が多く、雰囲気は良い。自ら進んで発言する生徒は少ないが授業の後に書かせる感想にはしっかりと自分の意見を書くことができる。提出状況も大変良い。
- 4 指導と評価の計画

## (1) 単元の目標

- A 関心・意欲・態度 積極的に授業に参加している。
- B 読む能力 筆者が述べようとしている「喜び」の本質について理解できている。「より深く生きること」についての筆者の考えを理解し、自分の意見を持っている。
- C 知識・理解 語句の意味を正しく理解し、身に付けることができている。

## (2) 具体的な評価規準

A 関心・意欲・態度	B 読む能力	C 知識・理解
①「喜びの本質とは何か」というテーマに関心を持っている。 ②大きな声で音読している。	①筆者が述べようとしている「喜び」の本質について理解したことをプリントに記入している。	①「全身全霊」「寛大」「断罪」「卑小」などといった熟語の意味を正しく理解し、身に付けている。

## (3) 指導と評価の計画

時間	主なねらい	主な学習活動	評価の基準と方法
1	筆者と全体の内容について理解する。	筆者について知る 全文を通読し、段落分けをする。	A①(行動観察)
2 本時	子供の喜びと大人の喜びの違いについて考える。	一段落の読解を通じて子供の喜びの特徴と大人の持つ欠落感について考えさせる。	A①②(行動観察) B①(プリント)
3	喜びと生きていることの関係について理解する	二段落の読解を通じて子供の喜びがどのような状態であるか読み取り、筆者が喜びをどのような感情と捉えているかを理解する。	A①②(行動観察) B①(行動観察)
4	筆者の考える本来の喜びについて理解する。「より深く生きること」とはどのようなことかを考える。	三段落の読解を通じて「生きることの最も根源的な形」とは何かを考え、「より深く生きる」とはどのようなことかについて自分の意見を持つ。	A①②(行動観察) B①(行動観察)

5 本時の計画

(1) 目標

「子供の喜びと大人の喜びの違い」についての筆者の考えを読み取り、グループでの話し合いを通して「欠落感」について理解を深める。

(2) 展開 (50分)

時間	学習活動	指導上の留意点	評価の観点
導入 10分	説明を聞き、本時の目標を確認する。	簡潔に示す。	
	自分の「喜び」について振り返り、なぜそれが喜びであったのか考える。 「ぬかるみ遊び」に対する今の自分の感想を述べる。	各自で考えさせ、発表させる。  率直な意見が出るように促す。	
展開 35分	一段落で注意したい語句について確認する。	指名して確認する。	
	範読を聞く 189頁1行～10行までの音読。 子供のぬかるみ遊びの特徴について理解し、なぜ大人は「ぬかるみ遊び」を楽しめないのか読み取る。	具体的な理由を指名して挙げさせ、共通点について考えさせ、発表させる。	大人が楽しめない理由を読み取れているか。 B①
	189頁11行～190頁13行までの音読  大人が子供のぬかるみ遊びを見て抱く感情はどのようなものか読み取る。	読み取った部分に線を引かせ、発表させる。	
	190頁14行～191頁7行までの音読 「無意味の意味」についてどういう意味か考える。 子供のころは楽しかったが、今はその実感が失われてしまった例を思い起こし、「欠落感」について理解を深める。	各自で考え、意見を発表させる。 具体例についてグループごとに話し合い、プリントに記入し、発表させる。助言しながら机間巡視を行う。	話し合いに参加し、意見を出しているか。 B①
整理 5分	一段落の内容をプリントにまとめる。	本時の内容を振り返りまとめさせる。	

評価の観点 意欲・関心・態度—A 話す・聞く—B 書く—C 読む—D  
知識・理解—E

6 観点別評価の進め方 (本時)

基準	評価方法	○ Aの状況 ● Cの状況
A①	行動観察	○ 興味を持って授業に参加している ● 全く興味を示さず、授業にも参加していない
A②	行動観察	○ 大きい声で全体に聞こえるように音読している ● 声が小さく全体に聞こえない。
B①	プリント点検	○ 他者や自分の意見をプリントに記入できている。 ● 他者や自分の意見をプリントに記入できていない。

# 平成25年度 校内授業研修会 協議会記録

< 教科：国語 >

実施日：10月31日（木）

授業者	浅野 兄一	科目	現代文
-----	-------	----	-----

協議会の参加者（授業参観者を含む）

指導主事：加賀谷 英一 ・ 中井 淳

熊谷智歩（司会）・神成由佳・奈良奈津子・浅野兄一（授業者）

成田美智子・小室真実・保坂聖子（記録）

## 【授業者より】

「喜び」という感情について考えさせながら、それが現在は失われているということを理解させたかった。失われてしまった喜びの例についてグループで話し合いをさせたが、最後に全体で考えさせながら理解を深めたかった。

## 【改善策等】

### 1 班

雰囲気作りが積極的な発言につながった。生徒が考える時間の確保が必要である。意見を出させた後にどのようにまとめるか、グループ活動の最初の指示が大切。時間配分をして進めれば目標に到達することができたのではないか。

### 2 班

「喜び」に対する意識づけができた。授業中に、発表者に耳を傾けるよう注意を促したり、生徒の意見を肯定的に聞く姿勢を持っていたことが生徒の学習意欲を高めることに繋がっていた。最終的にどのような理解が目標だったのか明示することや、広がりのある発問の工夫が必要である。

## 【指導助言】

（中井）

- ① グループ活動中の生徒の表情が良く、今後も言語活動の充実を図って欲しい。
- ② グループ活動は前半に行い、課題解決の場として活用すると良い。
- ③ 板書を工夫することで対比構造で書かれている文章だと理解することができる。
- ④ ゴールを見据えた授業を意識すると良い。

（加賀谷）

- ① 和やかな雰囲気で授業が展開されており、生徒との信頼関係ができていた。
- ② 教科書に出てくる順に発問をすると段落ごとの関係性が薄くなるため、発問の前後に繋がりを持たせるなど、広がりのある発問の仕方について研究していく必要がある。
- ③ 最初に大きなテーマを提示し、何を考えるのか意識させた上で発問を考えると良い。
- ④ キーワードになる言葉は生徒から聞き出すよう考えさせることも大切である。

## 第1学年C組 情報科 社会と情報 学習指導案

授業実施日：平成25年10月31日（木） クラス人数：32名 場所：コンピュータ室 指導者：畠山麻紀

1. 単元名 3章 FIND 情報社会の課題を見つける / 1節 情報化の影響と課題  
教科書：社会と情報（東京書籍）

### 2. 単元の指導目標

- 情報社会のさまざまな問題について理解させる。
- 情報モラルについて理解し、それを積極的に活用できるようにする。
- 情報セキュリティについて理解させる。

### 3. 単元と生徒

情報に関する興味は高くはないが、真面目にコツコツと取り組んでいる。実習で分からない部分があれば、積極的に質問し、課題を達成しようとする生徒が多い。コンピュータ操作に対するスキルに差があり、近くの生徒同士で教え合う環境作りをしている。

この単元では、情報モラルについての意識を高め、自ら考え行動できるようにすることで、トラブルを起こさない、巻き込まれない、責任ある行動を取ることができるようにさせたい。

### 4. 指導と評価の計画

〈単元の評価基準〉

	ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断・表現	ウ 技能	エ 知識・理解
評価の観点	情報の特徴と情報化が社会に及ぼす影響や課題について関心をもち、他者を尊重して情報社会の一員として積極的に参画する態度を身につけている。	収集・分析した情報をもとに論理的に思考することができ、情報の受発信時においても、情報モラルの観点から適切に判断することができる。	情報機器や情報通信ネットワークを適切に活用し、問題を解決し、状況に応じてメディアを選択してコミュニケーションを行うことができる。	情報機器や情報通信ネットワークを適切に活用する知識を身につけるとともに、情報および情報技術の社会的意義や役割について理解している。

〈具体的な評価基準〉

	ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断・表現	ウ 技能	エ 知識・理解
評価の観点	① 情報社会の影について関心をもち、その対策について考えようとしている。 ② 身近な情報セキュリティについて関心を持っている。 ③ 著作権の目的やその内容に関心がある。	① 情報社会におけるルールやマナーを調べたり考えたりする。 ② 個人情報をもどの程度まで提示する必要があるのか判断できる。	① 相手に配慮したコミュニケーションを取ることができる。 ② 匿名でのコミュニケーションにおいて、適切な発言方法について考えることができる。	① 情報社会にはさまざまな影の部分があることを理解している。 ② 情報セキュリティとは何かを理解している。 ③ 著作権の目的や内容を理解している。

<指導と評価の計画>

時間	主なねらい	主な学習活動	評価の基準と方法
1	○情報社会のさまざまな問題について理解することができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人情報の漏洩、チェーンメール、フレームとネットいじめについて学ぶ。</li> <li>・なぜ、ネット依存、ケータイ依存になるのか考える。</li> </ul>	ア① エ① (観察、ワークシート)
2			
3 本時	○情報モラルについて理解し、それを積極的に活用していくことを考えることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケータイの利用方法についての問題点をグループで話し合う。</li> <li>・被害に遭わない、加害者にならないためにすべき行動について考える。</li> </ul>	イ① ウ① (発表、ワークシート)
4			
5	○情報セキュリティについて理解することができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パスワードの設定、ウイルス対策について学ぶ。</li> </ul>	ア② エ② (観察、ワークシート)
6	○著作権について知識を深めることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・著作権、著作権法について学ぶ。</li> </ul>	ア③ エ③ (観察、ワークシート)
7	○個人情報について理解し、その保護や活用について理解することができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人情報の漏洩による危険性について考える。</li> <li>・匿名でのコミュニケーションによって起こるトラブルについて調べる。</li> </ul>	イ② ウ② (発表、ワークシート)
8			

## 5. 本時の計画

### (1)ねらい

- ケータイやスマートフォンとの付き合い方を考え、意見を共有する。

### (2)展開

過程	学習内容	教師の支援	評価・資料
導入 8分	スマートフォンの特徴を知る。	・スマートフォンは、アプリを自由に使うことができる、小さなパソコンであることを伝える。	モニタ
展開 37分	<p>(ワークシートの配布)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・DVDのドラマを視聴する。</li> <li>・スマートフォンの使い方に関する問題点をワークシートに記入する。</li> <li>・問題点と思ったことを話し合って共有する。</li> <li>・グループでどんな意見が出たか、発表する。</li> <li>・ドラマの最後の続きを考える。</li> <li>・どんなことが起きるかグループで考えた意見を発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドラマのあらすじを振り返る。</li> <li>・少しでも気になった・危険と感じたことも書かせる。</li> <li>・各自が問題点と思った内容をグループ内で共有し、理由まで考えさせるようにする。</li> <li>・自分が書き出せなかった意見がグループ内で出たら、ワークシートに書き加えさせる。</li> <li>・パワーポイントを使って、グループの意見をまとめさせる。</li> <li>・グループ内では出なかった意見が出たら、ワークシートに書き加えさせる。</li> <li>・自分では思い浮かばなかった意見が出たら、ワークシートに書き加えさせる。</li> <li>・グループ内では出なかった意見が出たら、ワークシートに書き加えさせる。</li> </ul>	<p>DVD モニタ</p> <p>イ①</p>
整理 5分	ケータイ、スマートフォンとの付き合い方について考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートの回収</li> <li>・追加の情報を提示する。</li> </ul>	ニュース記事

## 6. 観点別評価の進め方 (本時)

基準	評価方法	○Aの状況      ●Cの状況
イ①	ワークシート	<ul style="list-style-type: none"> <li>○問題点について、自分の意見となぜダメなのか理由付けがなされている。</li> <li>●自分の意見や問題点に対する理由付けが記入されていない。</li> </ul>

## 平成25年度 校内授業研修会 協議会記録

< 教科： 情報科 >

実施日： 10月 31日（木）

授業者	島山 麻紀	科目	社会と情報
-----	-------	----	-------

協議会の参加者（授業参観者を含む）

伊藤哲 指導主事・長岐祐輔 教頭・津嶋涼悦（司会）・飯塚俊介（記録）  
佐藤政弘・内川繁・半田肇・池端倫子・五代儀一貴

### 【授業者より】

授業のねらいは「スマホの使い方を考えさせる」。本来は長期休業前に情報モラルの学習の一環として実施予定の内容。（他クラスは冬休み前に実施する予定。）DVD再生時にトラブルがあり、授業最後のドラマの結末を考える時間が作れなかったのが残念だった。班ごとの発表のときに工夫出来ればよかったと思う。内容はLHRで担任の先生が使える内容であり、活用して欲しい。

### 【改善策等】

#### 1 班

学年としてタイムリーな内容。身近な話題でもあったので積極的な話し合いが行われていた。また話し合いの間に巡視しながら全体に声掛けをしていたのが良かった。

一方でパソコンがフリーズした時の指示など事前に対応策を考えておく必要があった。またトラブルの時間を差し引いても、時間的に無理があったことから内容の精査が必要であったと思う。生徒の発言で「個人情報危険」という発言があったが、高校生なので「どうして危険なのか」まで考えさせても良かったのではないかな。

#### 2 班

生徒達はDVDを真剣に見ていたし、その後の話し合いも笑顔で積極的に取り組んでいたのが良かった。ドラマのあらすじも生徒が考えを整理する時間として良かった。プリントやパワーポイントに工夫が見られ、生徒が取り組みやすかったと思う。

一方でアプリについては生徒の方が知っているのも、生徒に発表させても良かったのではないかな。トラブルは臨機応変に対応する必要あり。また後で授業内容を振り返ることができるように、教科書の単元やページ等に触れると良かった。

### 【指導助言】

指導案としては内容が盛りだくさんだが、生徒が考える場面設定があり良い。最初に生徒に1時間の流れを示すと、生徒はイメージしやすく、より動きが活発になる。グループワークでは、話し合ったことを発表するだけに留まらず、聞いた内容をメモするスペースをプリントにつくると効果的である。またグループの役割を最初に決めておくことも1つの手。教科の枠を越えた視点を大切に、授業研修を行って欲しい。

## 第1学年A組保健体育科学習指導案

授業実施日：平成 25 年 10 月 31 日（木） クラス人数：31 名 場所：1 A 教室 指導者：小倉里美

1. 単元名 現代社会と健康 11.薬物乱用と健康 教科書：現代高等保健体育（大修館）
2. 目標
  - (1) 生涯を通じて自らの健康を大切に保持し、改善していく資質や能力を持てるようにする。（関心・意欲・態度）
  - (2) 様々な状況に応じて適切な意志決定や行動選択ができるようにする。（思考・判断）
  - (3) 生涯を通じて健康の保持増進をするためには、生涯の各段階に応じた自己の健康管理及び環境づくりが関わっていることが重要であることなどについて理解させる。  
(知識・理解)
3. 生徒の実態 保健に関して興味・関心を持つ生徒が多く、学習態度は良い。しかし、発問に対してはすぐ教科書を開いて答えを探したり、周りの生徒に確認したりするなど、自分の考えを言葉で伝えることを苦手とする生徒が多い。

### 4. 指導と評価の計画

〈単元の評価基準〉

関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解
健康の保持増進に必要な事柄について、仲間と協力し、資料を集めたり、意見を交換したり、課題について調べたりして、意欲的に学習しようとしている。	健康の保持増進に必要な事柄について、自分のこれまでの学習や経験、資料や仲間の意見などを参考にしたりして、課題の設定や解決の方法を考え、適切な意志決定や選択すべき行動を判断できる。	健康の保持増進に必要な事柄について、健康を保持増進するためには、適切な生活行動を選択すること及び環境を改善していく努力が必要であることを理解し、課題解決に役立つ知識を身に付けている。

〈具体的な評価規準〉

ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断	ウ 知識・理解
薬物乱用と健康について、課題の解決に向けての話合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	薬物乱用と健康について、学習したことを防ぐためのさまざまな対策について、学習したことを個人および社会生活や事例などと比較したり、分類したり、分析したりするなどして、筋道を立ててそれらを説明する。	薬物乱用と健康について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。

〈指導と評価の計画〉

時間	学 習 活 動	評価の規準と方法
1 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・薬物乱用の健康影響、薬物が及ぼす社会問題を理解する。</li> <li>・薬物乱用の誘いに対して、適切な断り方を考える。</li> </ul>	イ 行動観察（グループワーク） ウ 確認テスト
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・薬物乱用の防止と対策を理解する。</li> <li>・薬物乱用におちいらないために、自分たちができることを考える。</li> </ul>	イ・ウ ワークシート

5. 本時のねらい

- (1) 薬物乱用は個人としても絶対に行ってはならず、また社会としても許されないことであり、それによる心身への健康影響、及び社会に与える影響を理解できるようになる。
- (2) 薬物乱用の誘いに対して、適切な断り方を考える。

6. 指導過程

	学習活動	指導上の留意点	評価の観点
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「薬物乱用防止教室」での感想を聞く。</li> <li>・本時のねらいを確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数名の生徒に発表させる。</li> </ul>	
展開 (35分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・薬物乱用が心身に及ぼす影響を理解する。</li> <li>・薬物乱用が引き起こす社会問題を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「薬物依存」など、心身に及ぼす影響を資料を提示して理解を深めさせる。</li> <li>・薬物の使用や所持は犯罪であることと、乱用者が起こした事件や事故について資料を提示して理解を深めさせる。</li> </ul>	
	<p>グループワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合い</li> <li>・ロールプレイング</li> </ul> <div style="border: 2px solid blue; border-radius: 15px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>友人からの誘いを、 どのようにして断るか。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3～4人のグループを作る。</li> <li>・誘われ方の例を3つ提示し、現実的な断り方をグループで考えさせる。(ワークシート)</li> <li>・各グループに発表させ、振り返りを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現実的で適切な断り方を考えているか。(思考・判断)</li> </ul>
まとめ (10分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・確認テスト (「友人の誘いを断ることが難しい理由」、選択問題)</li> <li>・適切な意思決定と行動選択の重要性を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・確認テストの生徒の解答を引用し、適切な意思決定と行動選択ができるようにしていくことを確認させる。</li> <li>・はっきりと一貫した断り方ができたグループに、もう一度発表させ、振り返りを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・薬物乱用の心身への影響と社会問題について理解できたか。(知識・理解)</li> </ul>

## 平成25年度 校内授業研修会 協議会記録

< 教科：保健体育 >

実施日：10月31日（木）

授業者	小倉里美	科目	保健
-----	------	----	----

協議会の参加者（授業参観者を含む）

岩井潤 指導主事

中嶋豊（司会）・船木祐輔（記録）・木村純子・鈴木亨・小倉里美（授業者）

渡部洋子・高橋桃湖・成田洋子

### 【授業者より】

事前に体育科内で協議を行ったこともあり、思ったよりも生徒の活動が積極的であった。時間配分に苦労したが、概ね計画通りに授業を進めることができた。授業のまとめのところで生徒に話をした内容は、導入の部分でも良かったように感じた。

### 【改善策等】

#### 1 班

生徒の発言を引き出すために授業の雰囲気や生徒が答えやすいような発問の工夫があったのでよかった。さらに、生徒の発言を板書することによって、クラス全員の共通理解をもっと図ることができるように思う。

#### 2 班

各班がロールプレイングを実施した後に、実施した生徒の感想やそれを見ていた他の班の感想を聞くことによってもっと深められたのかもしれない。

### 【指導助言】

- ① 指導案については各科内でしっかりと議論し、検討してもらいたい。
- ② 授業の中の生徒指導と関連して、協議会の中で椅子を机の中に入れる際に音を出さないところまで話し合っている様子は、女子校ならではのきめ細かい指導や観点ではないかと感心した。
- ③ 自分の身近な問題や話題だけを取り扱うのではなく、自分と社会とのつながりを意識させるような授業展開も必要となってくる。
- ④ 薬物乱用の防止については学校全体で取り組むべき課題であり、全職員の共通理解を図って取り組んでももらいたい。
- ⑤ ロールプレイングを実施したことにより、緊急時に対応できる可能性が高くなるように思う。自分自身を守るためにも、まずはその場を離れることが大切である。
- ⑥ 話し合いやグループワークを行った際に、知識の確認テストがあっても良かった。今後の保健体育授業の展開も踏まえ、よりしっかりとした授業を行っていく必要がある。

# 理科（生物）学習指導案

日 時 平成25年11月27日（水）6校時

対象クラス 2年B組（22名）

場 所 2年B組教室

指 導 者 奈良 紳也

使用教科書 生物（東京書籍）

ニューステージ新生物図表（浜島書店）

1. 単元名 3章 代謝とエネルギー 3 光合成

2. 目標 光合成を通して、光エネルギーを用いて有機物がつくられるしくみを理解する。

3. 単元と生徒 対象クラスは短大、専門学校進学希望者のクラスである。理科を苦手としている生徒が比較的多く、授業に臨む姿勢はやや消極的である。反応系など知識的に覚えることが多い単元であるが、自ら考え、気付くことができる力を養成することを目指す。

4. 指導と評価の計画

時	ねらい・学習活動	評価規準
1	本時（展開参照）	
2	葉緑体の詳細な構造を理解するとともに、光の波長と光合成色素の関係を理解する。	
	・葉緑体の構造について学習する。 ・どの波長の光が光合成に使用されているか実際に演示実験し確認する。	<思考・判断・表現> 実験の結果から、光合成色素がどの波長の光をよく吸収しているかを考察することができている。
3	チラコイドでの反応の概要を理解する。	
	・光化学反応、電子伝達、ATP合成について学習する。	<知識・理解> 光合成により発生する酸素はチラコイドでの水の酸化分解によって起こることを理解している。
4	ストロマでの反応の概要を理解する。	
	・カルビン・ベンソン回路について学習する。 ・光合成全体の反応についてまとめる。	<技能> 光合成の全体の化学反応式を書くことができる。
5	植物が行う光合成と細菌が行う光合成の共通点と相違点を理解する。	
	・植物以外の行う光合成について学習する。	<知識・理解> 光合成細菌の水素源は硫化水素（ $H_2S$ ）であることを理解している。

## 5. 本時の計画

(1) ねらい 光合成の反応を確認する方法を考えることから、光合成のおおよそのしくみを理解する。

### (2) 展開

	学習活動	指導上の留意点	評価
導入 (10分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回の確認をする。</li> <li>・本時の学習内容を把握する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回の内容をもとに小テストを行う。</li> <li>・今まで学習していた「異化」とは異なる代謝反応である「同化」、主に「光合成」について学習することを確認する。</li> </ul>	
展開 (35分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・植物が光合成を行っているかどうかを調べるためにはどうしたらよいか話し合う。</li> <li>・各グループで出された意見を代表者が発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仮説を立てるように指示をする。 「光合成を行っているのであれば〇〇である」という仮説の型を提示する。</li> <li>・仮説を検証する方法を考えさせる。 検証方法を考えやすいように、試薬や道具を提示する。</li> <li>・仮説と検証方法を発表させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・光合成の反応を確かめるための実験方法を考えることができる。(B)</li> </ul>
まとめ (5分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の確認をする。</li> <li>・次時の予告をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表内容を踏まえ、光合成のおおよそのしくみを確認する。</li> </ul>	

## 平成25年度 校内授業研修会 協議会記録

< 教科： 理科 >

実施日：11月27日（水）

授業者	奈良紳也	科目	生物
-----	------	----	----

協議会の参加者（授業参観者を含む）

校長、奈良奈、内川、成田美、保坂、五代儀、佐藤、神成、半田、池端、奈良紳

### 【授業者より】

グループ活動の中で、生徒が活発に話し合うことができている良かったと思う。反省点としては、話し合いに時間をかけすぎてしまい、まとめまでできなかったことである。今後、授業を構成する際に、生かしていきたいと思う。

#### ①発問の工夫について

成果

- ・これまで学んだ知識を生かして、仮説検証方法を考えさせている。
- ・言葉遣いが丁寧で、たくさんのヒントを出されていて生徒たちが考える助けになっていた。
- ・仮説の例を挙げている、実物を見せて興味を引いている、声が聞きやすいなど、発問への誘導が工夫されていた。

課題

- ・「仮説、検証」をもっとわかりやすい言葉で扱う。
- ・同化・異化について、言葉だけではわかりにくく、板書や図示を工夫する。
- ・話し合いのスタートの段階で、光合成についての基本的なしくみなどの情報を提示した方が良い。
- ・目標を出す前に、光合成についての予備知識を問う。
- ・発問後の間が短い。
- ・「仮説・検証」といった用語の説明があった方が、生徒が入りやすいのではないかな。

改善策

- ・生徒目線で、説明などを心掛ける。
- ・生徒の思考時間を長くするような配慮が必要。

#### ②全員参加型の授業展開

成果

- ・できる生徒に教えさせるなど、スムーズなグループ活動が行われていた。
- ・1つの班が答えられなかったところを、全体の質問にするなど、全員参加へ誘導していた。

- ・ワークシート、板書など、教材の工夫がされていた。
- ・各グループにおいて、意見を述べやすい雰囲気できていた。
- ・中学校の復習からスタートしていた。
- ・はじめに話し合いの時間がいつまでか、明確に指示していた。

#### 課題

- ・グループ構成で、生徒間に温度差がある。
- ・まとめの時間を考えた授業構成が必要。
- ・話し合う前に発表者を決めておく、説明をグループになる前に事前に行う、グループになったときの緊張感の保ち方など、グループ活動の注意点に配慮する。
- ・内容のレベルアップへの展開が必要。

#### 改善策

- ・グループになる前に、各自で考える時間が必要。
- ・説明に集中できるよう、グループになる前に説明をした方が良い。
- ・途中で班のメンバーを入れ替える。
- ・まとめの時間を確保し、レベルアップにつなげる。

#### ③肯定的助言

#### 成果

- ・机間巡視、問いかけ、理解の確認など、きめ細かな指導がなされていた。
- ・生徒の発表を促す声かけ、発表者のフォローが丁寧であった。
- ・似た内容でも発表させ、発言を生かしていた。
- ・みんなで方法を確認していた。

#### 課題

- ・仮説が正しいのかについて、1つでも演示実験をして、みんなで確認できればさらに良かった。
- ・ヒントを出すのが早い。

#### 改善策

- ・各自で考える時間を設定する。
- ・演示実験等を工夫する。

#### 【指導助言】

・以前の授業での注意点を踏まえ、努力している。・みなさん、よく見て意見等を述べている。・付箋紙は太いペンで、1～3行で書く。・キーになる意見を取り上げて、検証する方法もある。・キャリア教育も意識していて良かった。・小テストの丸付けも入る。・話し合いの時間設定が明確であったので良かった。ただ、最後のまとめのことを考えると、もう少し短くても良かった。・生徒が発表するとき、先生ではなく生徒の方を向かせる。・生徒の発表に対して先生だけが答えていたが、生徒に挙手させて意見を述べさせると良い。・まとめができない事を予想して、対策を考えておく。・先生の説明を減らす。・グループ協議前のヒントを減らす。

## 芸術科 音楽Ⅱ 学習指導案

日 時：平成25年11月27日（水）6校時  
場 所：音楽室  
クラス：2年A組（選択者21名）  
指導者：成田 洋子

1 題材名 作曲家になろう ～俳句や短歌の作品をモチーフにして～（創作）

2 題材の目標

日本固有の5音音階の旋律に関心をもち、言葉のイントネーションと旋律の関係について知覚し、それらの働きを感じて音の高低を変化させ、イメージをもって音楽をつくる。

3 生徒と題材

音楽を楽しもうとする雰囲気のあるクラスである。普段の歌唱や器楽では、作曲家の作品を受け身的に表現しているが、自ら作品を創り上げていく作曲では、自らが考え・創り出していく力を養うことを目指す。

4 題材の評価規準

観点1 音楽への関心・意欲・態度	観点2 音楽表現の創意工夫	観点3 音楽表現の技能
①我が国固有の五音音階の旋律に関心をもち、イメージを持って音楽をつくる学習に主体的に取り組もうとしている。	①言葉のイントネーションと旋律の関係を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気などを感じている。 ②音階の特徴を生かして、音の高低を変化させ、表現したい音楽をイメージして音楽表現を工夫し、どのように音楽をつくるかについて表現意図を持っている。	①音の高低を変化させ、表現したい旋律をつくるために必要な演奏や記譜などの能力を身につけ、創造的に表現している。

5 指導と評価の計画（3時間）

時	◆ねらい・学習活動	評価規準・評価方法
1	◆我が国固有の五音音階の旋律に関心をもつ。 ・俳句や短歌を詠み、音階を選ぶ。	《音楽への関心・意欲・態度》 我が国固有の五音音階の旋律に関心をもち、イメージをもって音楽をつくる学習に主体的に取り組もうとしている。〈観察〉〈ワークシート〉
2	本時（展開参照）	
3	◆自己の表現意図を意識して作品を演奏する。 ・作品を発表する。 ・発表を聴き、他の生徒の作品を批評する。 ・わらべ歌と日本の音階について学習する。	《音楽表現の技能》 音の高低を変化させ、表現したい旋律をつくるために必要な演奏や記譜などの能力を身につけ、創造的に表現している。〈観察〉〈ワークシート〉

5 本時の計画

(1) ねらい

言葉とイントネーションと旋律の関係を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気などを感じながら、音階の特徴を生かして、音の高低を変化させ、表現したい音楽をイメージして音楽表現を工夫し、どのように音楽をつくるかについて表現意図をもつ。

(2) 展開

	学習活動	指導上の留意点	評価
導入 (10分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○前時までの確認をする。</li> <li>○学習課題を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○音楽の構成要素について、身近な音楽と関連させて知ること、創作意欲を高める。</li> </ul>	
<p>課題：言葉や音階などの特徴を生かし、表現を工夫して旋律をつくろう。</p>			
展開 (35分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○五音音階をつかって、イメージにあった表現を工夫する。</li> <li>○各班の発表を聴きあう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○俳句や短歌にふし（音高・リズム）をつけ、記譜をする。</li> <li>○グループ内で意見を共有し、イメージを明確にさせる。</li> <li>○表現意図を発表させ、実際の言葉との整合性に着目できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○旋律をつくることに意欲的に取り組んでいる。 (観点1) [観察・シート]</li> <li>○グループで表現を工夫していく過程で、ことばのイントネーションと旋律の関係を知覚し、それらの働きが生み出す雰囲気を感じている。 (観点2) [観察・シート]</li> </ul>
まとめ (5分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の学習を振り返る。</li> <li>○次時の学習内容を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○スムーズに自己評価できるようにシートの内容を工夫する。</li> </ul>	

# 平成25年度 校内授業研修会 協議会記録

< 教科：音楽 >

実施日：11月27日（水）

授業者	成田 洋子	科目	音楽Ⅱ
-----	-------	----	-----

協議会の参加者（授業参観者を含む）

指導助言：長岐教頭先生

鈴木亨 高橋桃湖 浅野兄一 浅野兄一 木村純子 渡部洋子（司会）畠山麻紀

津嶋涼悦 船木祐輔 熊谷知歩 小室真実（記録）

## 【授業者より】

10年研という機会に恵まれ、研修させていただいているが、学んだことを中々授業に転換できないのが悩み。修学旅行の俳句を見てこの題材のアイデアが浮かんだ。箏は五音しか使わないので音を絞ることで生徒の創作はやりやすいと思い音を厳選した。問いかけがほとんどできなかったのが反省点。音楽の能力差があるので、グループで活動することで、意見を述べる事ができない生徒も一つくらい発言でき共有できたと思う。箏の使用により、身近なもので自分自身を表現することになったと思った。時間があつたら、もっと詩からどんな情景が思い浮かぶかまで考えさせたい。

## 【改善策等】

### 1 班

課題①：作曲の工夫の点を発表させたい。特定の生徒のみの発言が多い。

改善策①：全体に問いかけ、問いを広げる場面をつくる。

課題②：個人活動がなく、グループでの活動に限定されていた。

改善策②：いきなりまとめず話し合いの手順を具体的に提示する。まず始めは、個々の席で活動し「分散」「集結」を繰り返す。

### 2 班

課題①：理解を確認するための発問がほしい。

改善策①：全体への発問と個々の発問の組み合わせ方に工夫する。

課題②：創作時間と聴き合う時間をもっと設定したい。また、一部の生徒のみ盛り上がっていた。発表時に顔を上げさせメリハリをつけたい。

改善策②：2～3人のグループにするともっと早く完成できそう。また、グループをたくさん作ると、たくさんメロディーが聴けたのではないかな。

## 【指導助言】

本日の授業は音楽教育の目標実現に向けて、修学旅行での自作の俳句を題材に、音楽の学習でのポイントとされる、「音楽的な感受に支えられた思考・判断・表現の過程を大切に、主体的・創造的な学習を実現する」ということを押さえた、その学習活動における特性も踏まえた内容で計画されており、特に、今日の学校教育で課題とされる、「生徒一人一人の思考を深め、判断を促していくこと」や「生徒同士が関わり合う、協同的な取組の促進」などを意識した指導は、他教科においても参考にすべきことでもある。そのことからして、今年度の授業研修のテーマに概ね沿った取組がなされていた。ただ、授業前半での指導内容の中に含まれていた発問の確認対象は、授業に積極的に参加しているグループだけでなく、発問の内容によって、個別あるいは全体に行う必要があると感じた。後半でのグループ発表への肯定的な助言は見られたが、それを受けて改善された発表を各グループに更に行わせることで、より充実した取組になる。なお、授業には各グループ全員が参加しているようだったが、机間巡視で状況を確認し、大人しい生徒に対しての活躍の場を与える配慮が見られたことは評価したい。

最後に、この題材を通じて生徒に身につけさせたい力をもう少し明確にして、その定着が確実にされるよう、今後も一層の指導の改善・充実に努めていただきたい。

# 平成 2 5 年度授業アンケート集計結果

## 1 アンケート調査の内容

- (1) 調査の目的 生徒に自己の学習への取り組みを振り返らせ、また、授業や教科担任に対しての生徒の評価を知ることにより、授業の成果と問題点を把握し、授業改善に役立てる。
- (2) 調査概要 各教科担任が各学年 1 クラスを対象として実施する。  
1 回目（7 月）と 2 回目（1 2 月）は、同じクラスで実施し比較する。
- (3) 回答方法 各教科ごとに「4…そう思う、3…だいたいそう思う、2…あまりそう思わない、1…そう思わない」の 4 段階で行った。

## 2 グラフについて

- (1) 評価の集計は、10 項目において評価された数字の平均値を算出した。
- (2) 各回の集計結果では、教科ごとに全学年の平均値を出したものと、学年別平均値を出し各学年を比較できるようにした。
- (3) 1 回目と 2 回目を比較したグラフは、全学年の平均値で比較できるようにした。

### 3 全校授業アンケート用紙

☆ このアンケートは授業改善の一環として、これまでの授業の状況を確認するために行うものです。授業を振り返り、率直かつ誠実に記載してください。

次の質問について、1～4の該当する数字を○で囲んでください。

- 4：よくあてはまる、そう思う
- 3：ほぼあてはまる、だいたいそう思う
- 2：あまりあてはまらない、あまりそう思わない
- 1：まったくあてはまらない、そう思わない

学級： 年 組 科目： \_\_\_\_\_

番. 氏名 \_\_\_\_\_

(※差し支えなければ書いてください)

No.	質問事項 (先生について)	評 価
1	先生の熱意を感じる。	< 4 - 3 - 2 - 1 >
2	授業のねらいが明確に示されている。	< 4 - 3 - 2 - 1 >
3	説明する言葉が分かりやすく、声も聞き取りやすい。	< 4 - 3 - 2 - 1 >
4	黒板の使い方は、見やすく工夫されている。	< 4 - 3 - 2 - 1 >
5	授業の進み方は、ちょうど良い。	< 4 - 3 - 2 - 1 >
6	授業に集中できる雰囲気を保つように指導している。	< 4 - 3 - 2 - 1 >

No.	質問事項 (自分について)	評 価
7	自分の学力 (知識) や技術が伸びていると感じる。	< 4 - 3 - 2 - 1 >
8	私は、始業前に席に着き、授業の準備をしている。	< 4 - 3 - 2 - 1 >
9	私は、授業に真面目に取り組んでいる。	< 4 - 3 - 2 - 1 >
10	私は、課題など意欲的に取り組み、家庭学習をしようと努めている。	< 4 - 3 - 2 - 1 >

その他、この教科・科目の授業において日頃感じていること、改善してほしいこと、勉強の仕方の相談など、どんなことでもいいので書いてください。スペースが足りない場合は、裏へどうぞ。

## 平成25年度第1回授業アンケート集計結果(1/2)

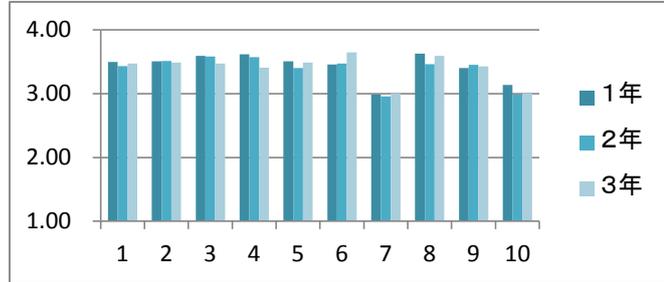
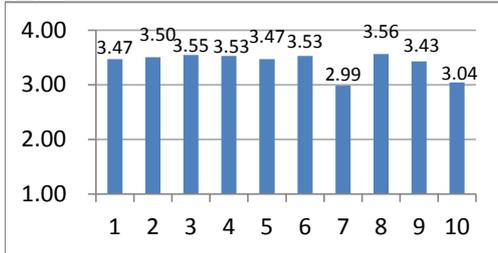
【質問項目】

- ①先生の熱意を感じる。
- ②授業のねらいが明確に示されている。
- ③説明する言葉が分かりやすく、声も聞きとりやすい。
- ④黒板の使い方は、見やすく工夫されている。
- ⑤授業の進み方は、ちょうど良い。
- ⑥授業に集中できる雰囲気を保つように指導している。
- ⑦自分の学力(知識)や技術が伸びていると感じる。
- ⑧私は、始業前に席に着き、授業の準備をしている。
- ⑨私は、授業に真面目に取り組んでいる。
- ⑩私は、課題など意欲的に取り組み、家庭学習をしようと努めている。

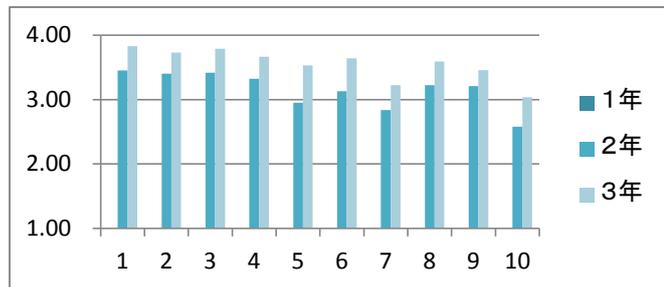
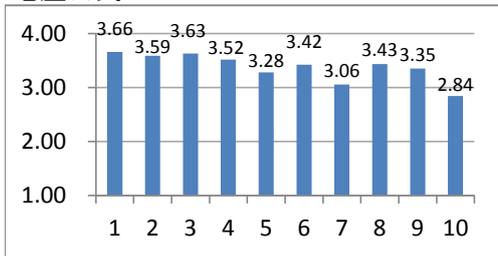
※評価

- 4-そう思う
- 3-だいたいそう思う
- 2-あまりそう思わない
- 1-そう思わない

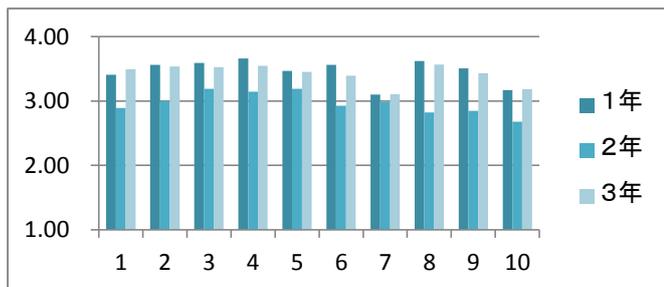
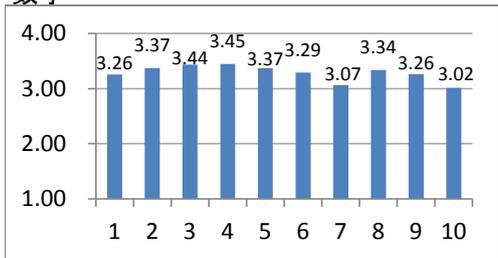
### 国語



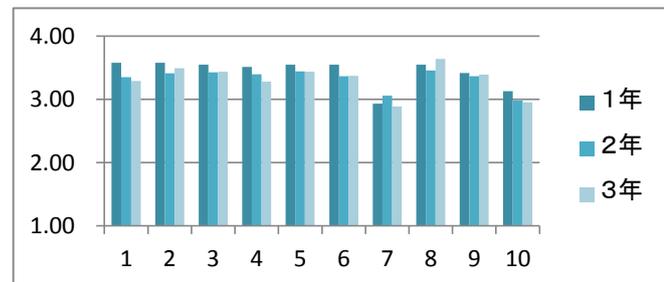
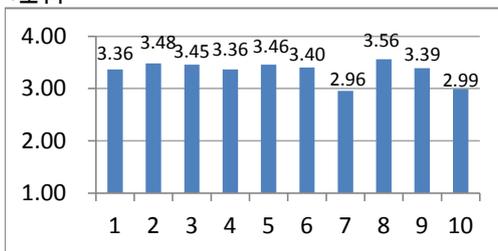
### 地歴公民



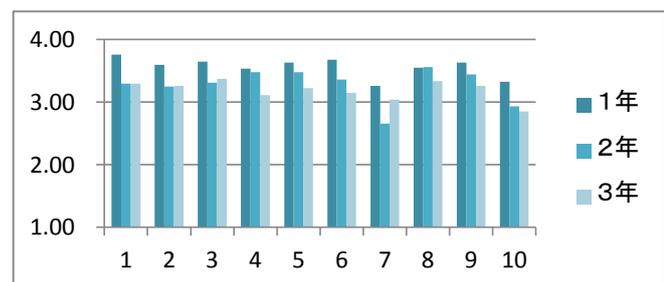
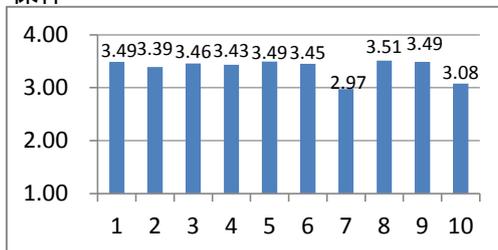
### 数学



### 理科



### 保体

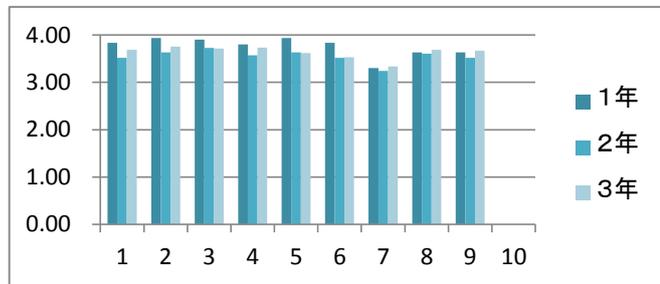
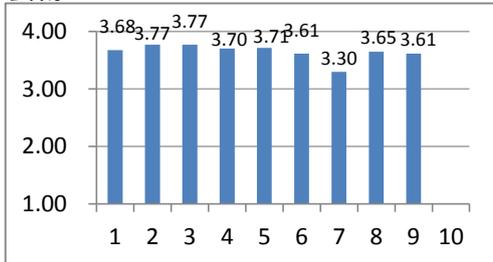


## 平成25年度第1回授業アンケート集計結果(2/2)

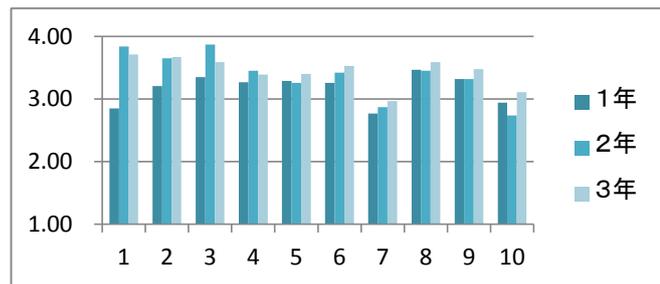
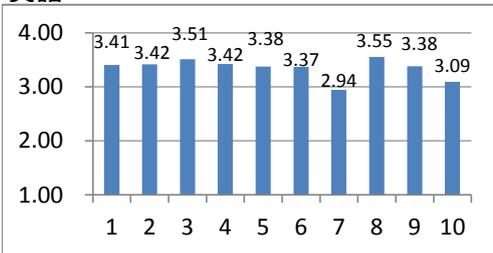
- 【質問項目】
- ①先生の熱意を感じる。
  - ②授業のねらいが明確に示されている。
  - ③説明する言葉が分かりやすく、声も聞きとりやすい。
  - ④黒板の使い方は、見やすく工夫されている。
  - ⑤授業の進み方は、ちょうど良い。
  - ⑥授業に集中できる雰囲気を保つように指導している。
  - ⑦自分の学力(知識)や技術が伸びていると感じる。
  - ⑧私は、始業前に席に着き、授業の準備をしている。
  - ⑨私は、授業に真面目に取り組んでいる。
  - ⑩私は、課題など意欲的に取り組み、家庭学習をしようと努めている。

※評価  
 4—そう思う  
 3—だいたいそう思う  
 2—あまりそう思わない  
 1—そう思わない

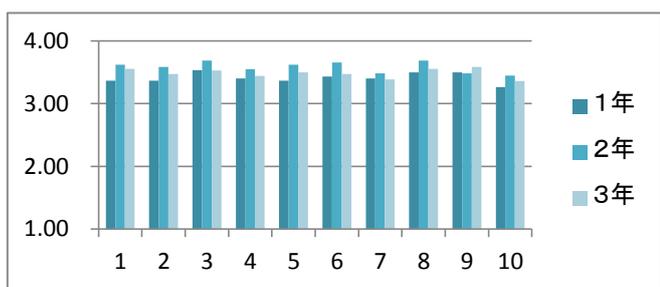
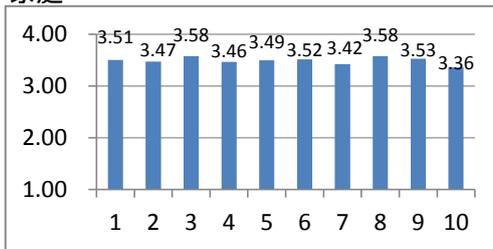
### 芸術



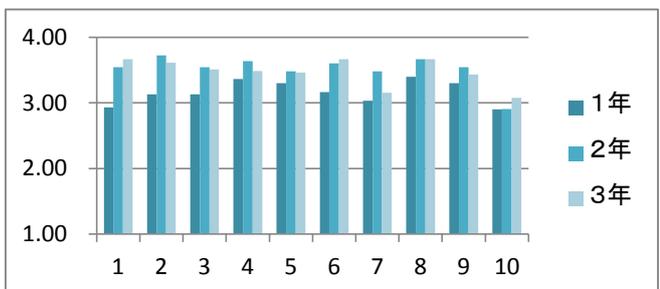
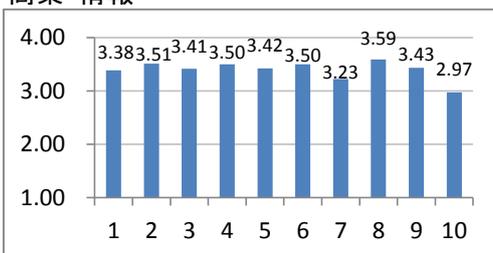
### 英語



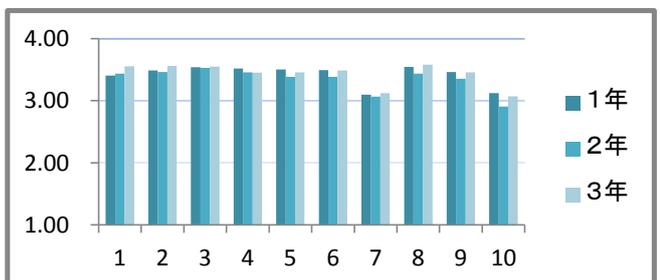
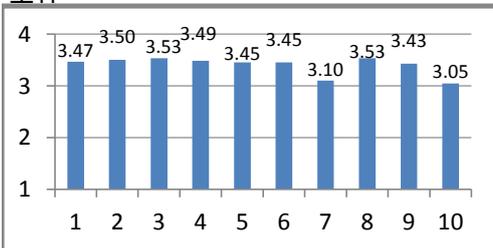
### 家庭



### 商業・情報



### 全体

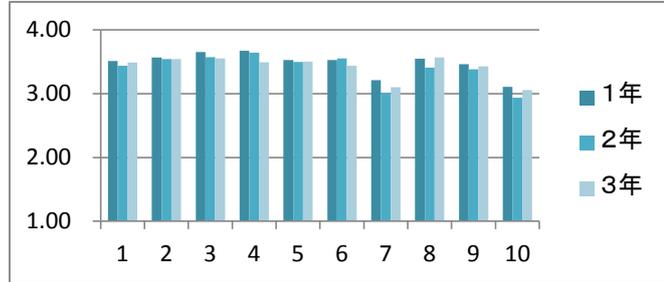
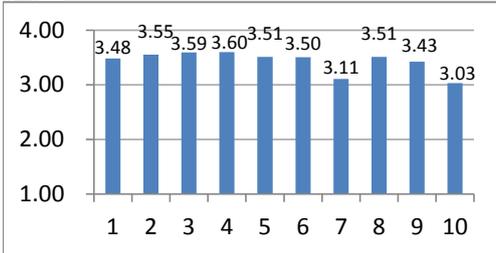


## 平成25年度第2回授業アンケート集計結果(1/2)

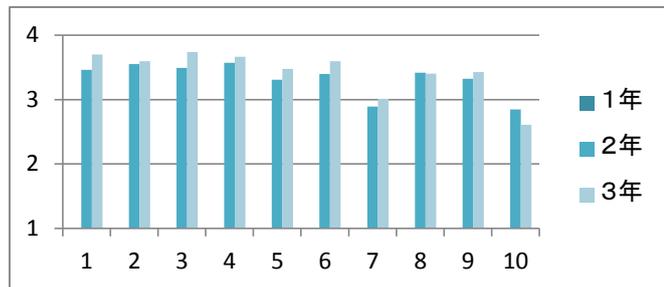
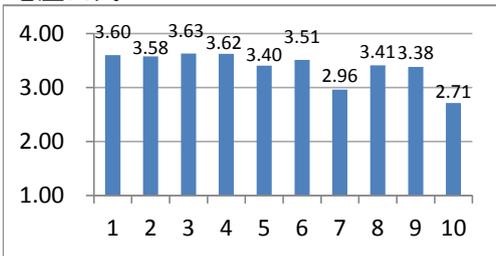
- 【質問項目】
- ①先生の熱意を感じる。
  - ②授業のねらいが明確に示されている。
  - ③説明する言葉が分かりやすく、声も聞きとりやすい。
  - ④黒板の使い方は、見やすく工夫されている。
  - ⑤授業の進み方は、ちょうど良い。
  - ⑥授業に集中できる雰囲気を保つように指導している。
  - ⑦自分の学力(知識)や技術が伸びていると感じる。
  - ⑧私は、始業前に席に着き、授業の準備をしている。
  - ⑨私は、授業に真面目に取り組んでいる。
  - ⑩私は、課題など意欲的に取り組み、家庭学習をしようと努めている。

※評価  
 4—そう思う  
 3—だいたいそう思う  
 2—あまりそう思わない  
 1—そう思わない

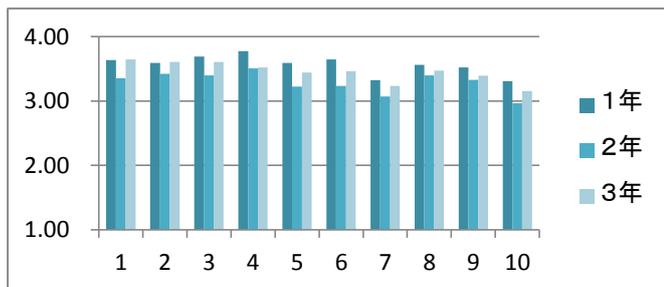
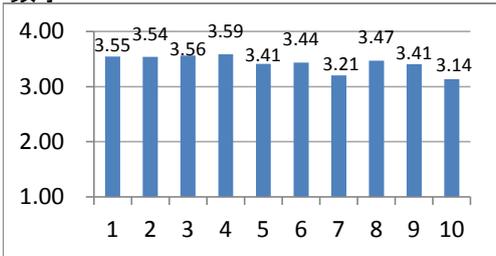
### 国語



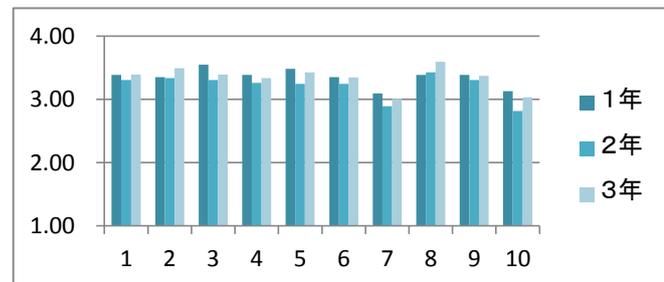
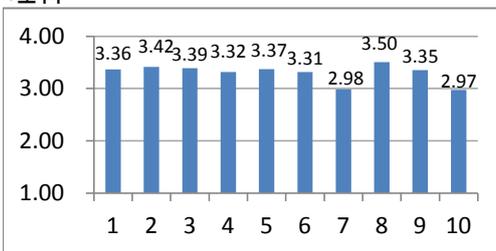
### 地歴公民



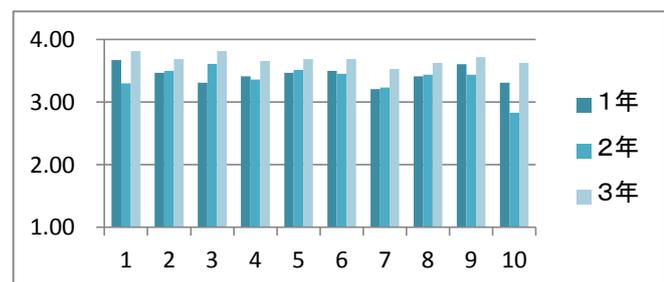
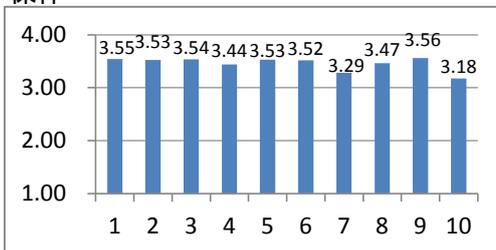
### 数学



### 理科



### 保体

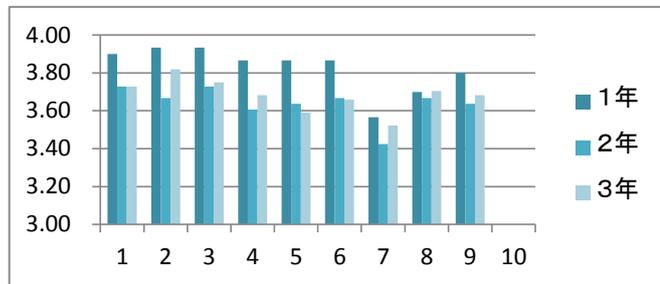
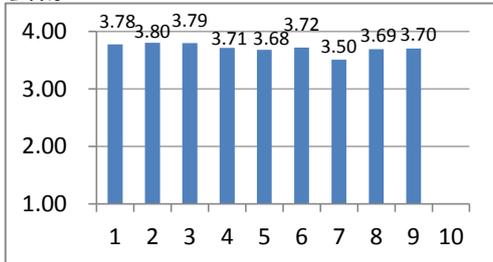


## 平成25年度第2回授業アンケート集計結果(2/2)

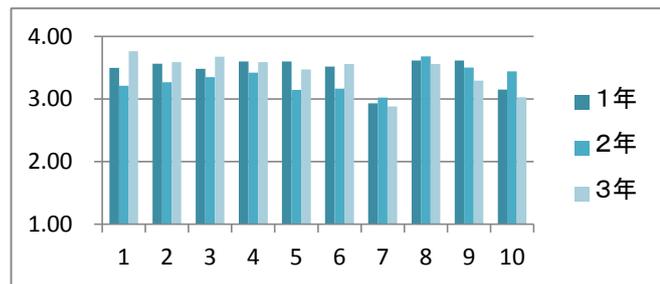
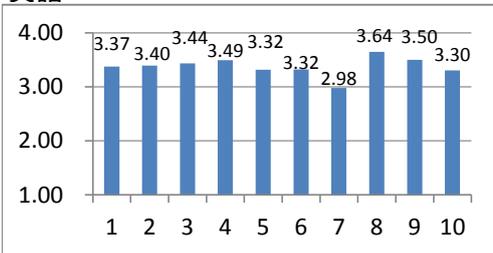
- 【質問項目】
- ①先生の熱意を感じる。
  - ②授業のねらいが明確に示されている。
  - ③説明する言葉が分かりやすく、声も聞きとりやすい。
  - ④黒板の使い方は、見やすく工夫されている。
  - ⑤授業の進み方は、ちょうど良い。
  - ⑥授業に集中できる雰囲気を保つように指導している。
  - ⑦自分の学力(知識)や技術が伸びていると感じる。
  - ⑧私は、始業前に席に着き、授業の準備をしている。
  - ⑨私は、授業に真面目に取り組んでいる。
  - ⑩私は、課題など意欲的に取り組み、家庭学習をしようと努めている。

※評価  
 4—そう思う  
 3—だいたいそう思う  
 2—あまりそう思わない  
 1—そう思わない

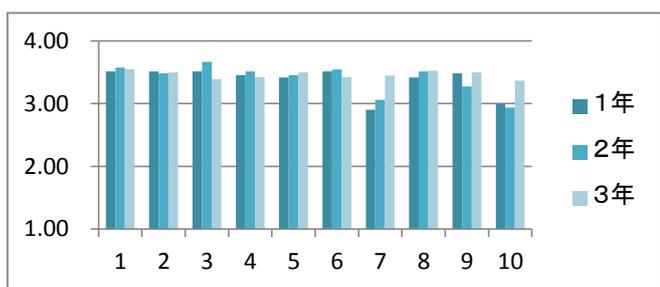
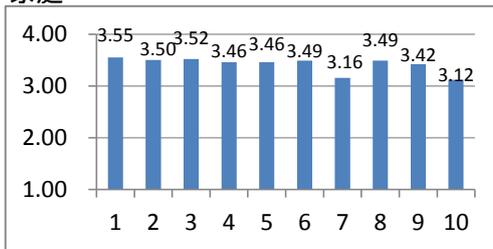
### 芸術



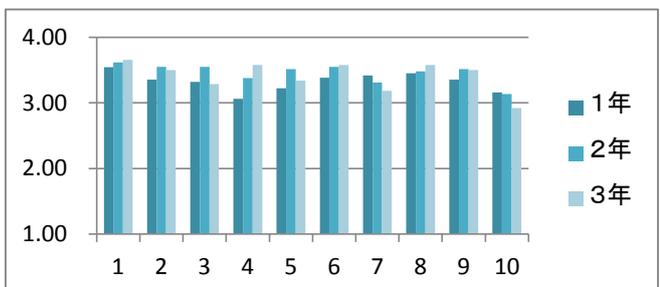
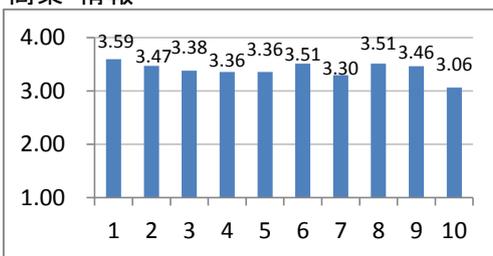
### 英語



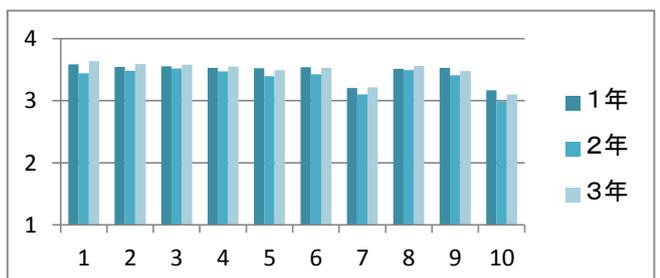
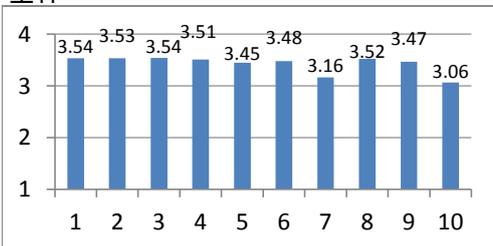
### 家庭



### 商業・情報

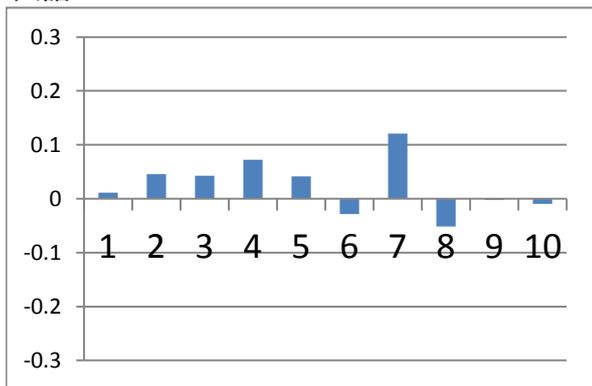


### 全体

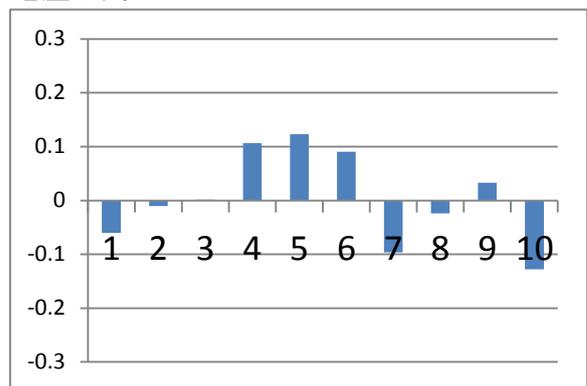


平成25年度授業アンケート 1回目と2回目の全学年平均値の比較  
 (2回目の平均値－1回目の平均値)

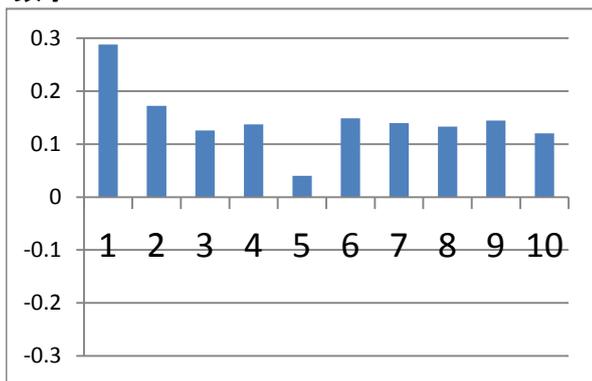
国語



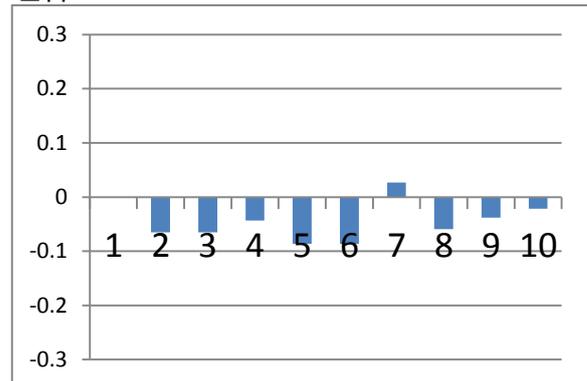
地歴公民



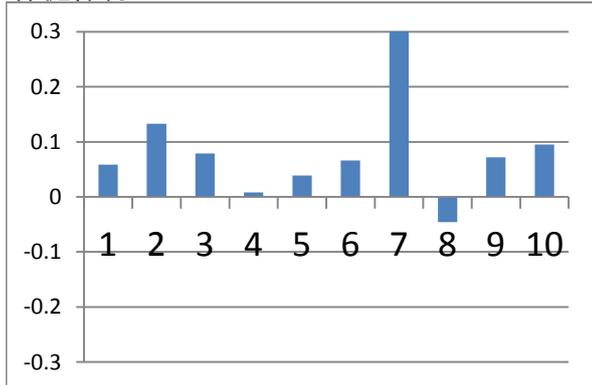
数学



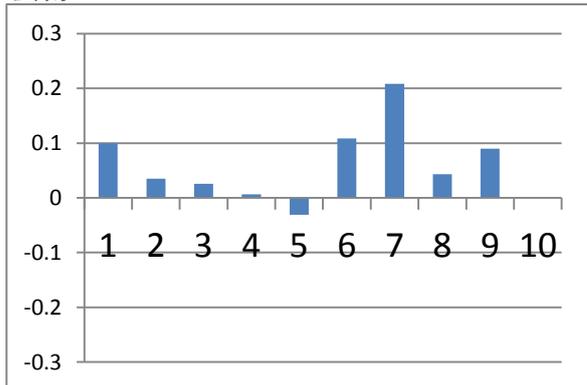
理科



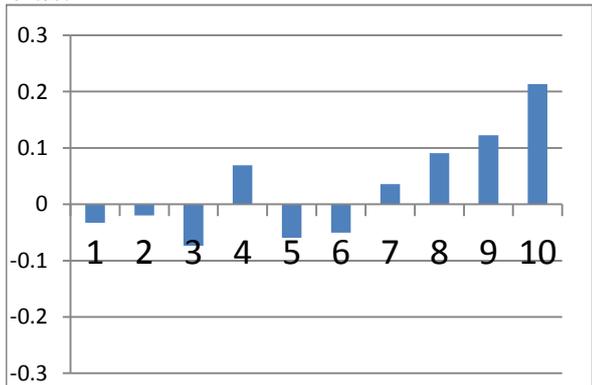
保健体育



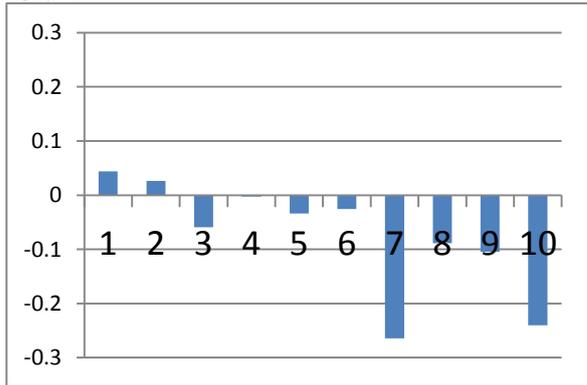
芸術



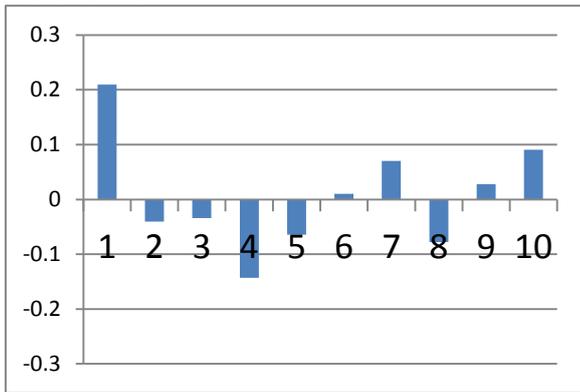
英語



家庭

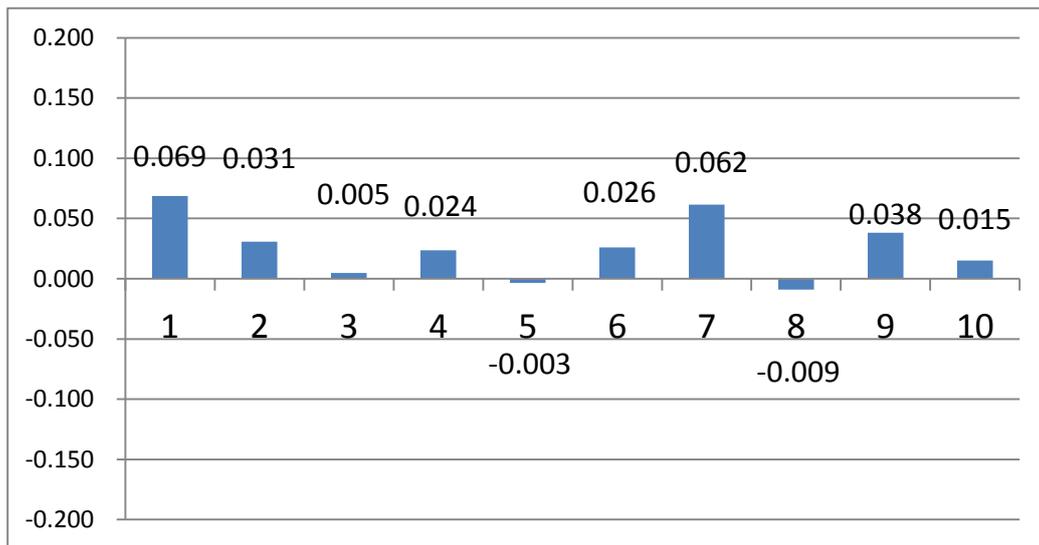


## 商業・情報

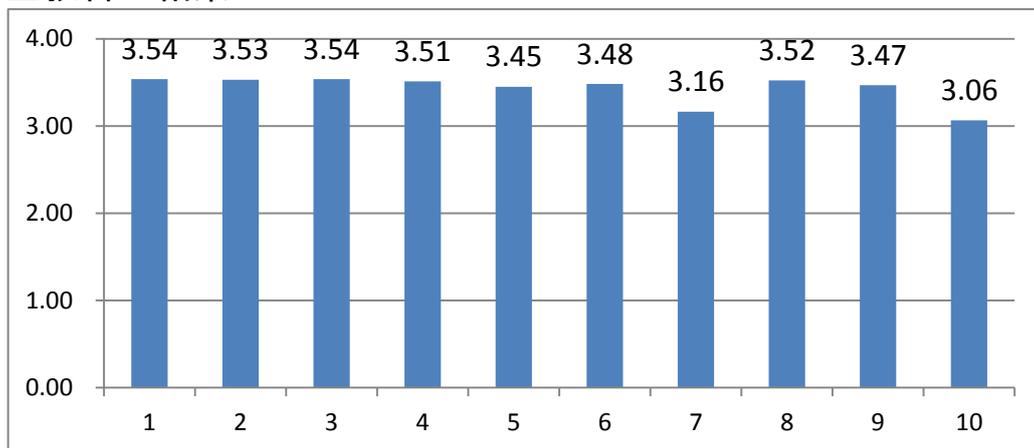


※平均値の変化のない項目は、グラフに出ていません。

## 1回目と2回目の比較(全教科)



## 2回目の全教科の結果



全教科の1回目と2回目の比較結果を見ると、いずれの項目も著しい変化はなかったが、その少ない変化の中でも「1. 先生の熱意を感じる。」と「7. 自分の学力(知識)や技術が伸びていると感じる。」の項目で伸びが見られたことは、授業改善の成果と言える。また、「7. 自分の学力(知識)や技術が伸びていると感じる。」の項目の数値の変化は、『わかる授業』から『できる授業』を意識した結果と考えられる。それ以外の項目でも、昨年度よりも良い数値になっている項目がほとんどであることから、今後一層の授業改善を行い、生徒が充実した学習ができるよう期待したい。

# 高等学校教職10年経験者研修を終えて

教諭 成田 洋子

## 1 はじめに

初任から、早いもので12年が経過した。人事異動で新しい学校での勤務、担任など、不安な要素を抱えてのスタートでしたが、この「10年経験者研修」は自己をみつめる良い機会であると捉え、自らの長所や短所を省みることができ、より実践的な形で研修を受けることができました。ここに、1年間の研修内容を振り返り、まとめていきたいと思う。

## 2 校外研修

### 総合教育センター担当研修

- I 期
  - ・本県学校教育の現状
  - ・学校の危機管理
  - ・公開講演「質の高い授業研究を継続的に進めていくための方略」
- II 期－a
  - ・キャリア教育の在り方
  - ・学校全体で取り組む情報教育
  - ・イブニング・セミナー
- II 期－b
  - ・授業づくりと授業研究の実際
  - ・これからの高等学校に求められる教科指導の在り方
- III 期
  - ・生徒理解と人間関係づくり
  - ・教師が使えるカウンセリングの技法
  - ・事例を通して見た不登校・いじめ・問題行動への具体的な対応
- IV 期
  - ・教育公務員の服務
  - ・10年経験者研修のまとめ
  - ・本県の教育課題とこれからの学校教育

### 高校教育課担当研修

- ・基礎研修 県立高等学校10年経験者研修校長等連絡協議会
- ・授業研修 他校での授業研修（9月10日 秋田北高校）
- ・選択研修 大館市立有浦保育園（7月30日～31日、8月2日）

校外研修は総合教育センター担当研修と高校教育課担当研修があり、合計10日間行われた。その中で特に印象深かったものについて述べたい。

### Ⅲ期 ・教師が使えるカウンセリングの技法

本校の生徒をみると、一人ひとりが様々な悩みを抱え、それを自分の中にため込んでいる生徒が増えているように感じる。そのような生徒の気持ちを理解するためにも、カウンセリングの技法を身につけることは大事だと感じた。

教職に対する強い情熱、教育の専門家としての確かな力量、総合的な人間力を持ち、伝える力、まとめる力、ケアする力、つながる力を身につけたい。

傾聴する姿勢を大事にし、相手の使っている言葉を空いての使っている意味において理解しようと努める。また、「アイ・メッセージ」で伝えることの大切さも知った。「私」を主語にして、自分自身の気持ちを伝え、相手に判断をゆだねる。こうして本人にとってのゴールを設定し、小さな変化を起し解決策を指示・アドバイスできる教師になっていきたい。

## 3 校内研修

校内研修は教科指導等研修と生徒指導等研修の2領域に分かれており、その研修日数が20日を下回らない程度で行われた。これは事前に自己の能力、適性等について評価を行い、その結果に基づき、自分にとって研修が必要な分野についての実施計画を立てて取り組むというものであった。教科指導等研修では、10年研ということで指導案の作成から関わって若年教員に対して指導するというものであり、中堅教員としての立場を改めて実感した。また、研究授業では教頭先生をはじめ、他教科の先生方からも様々な視点から貴重な意見を戴くことができ、今後の授業改善に活かしていきたいと思った。生徒指導等研修では、教頭先生から法規上の扱いについての課題が与えられ、初めて「秋田県教育関係職員必携」を手にしながら法規について勉強し、中堅教員として期待されている立場であることを実感した。その他、校長先生、各分掌主任の先生方からも貴重なお話を聞くことができた。

## 4 選択研修 大館市立有浦保育園（7月30日～31日、8月2日）

数年前に改築をしたばかりの環境の整った有浦保育園で研修させていただいた。園内にはプール、また隣接する小学校の校庭脇のありうらの森には大きな遊具もあり、体を思い切り使った遊びが展開されていた。

4歳児では、発達障害を抱えた子どもがおり、友達と積極的に関わることはできないが、基本的な生活習慣を身につけさせて、小学校等へ送り出すことを目指している。そのため先生方は時には厳しく時には優しく接しながらも昨日までできなかったことができた時は褒めて育てるというスタンスが見えられた。2歳児では、言葉も巧みになり自分の意思をしっかりと伝えることを先生方は丁寧に教えている様子を伺うことができた。0歳児では基本的な生活習慣の習得が主な目標となっており、できなくても毎日同じ事を繰り返して行うことで身につけさせていくという指導の継続の効果を実感した。

この研修を通して、どの年代のこどもたちにも先生方は年齢に合った接し方を終始ぶれずに行っていたことが印象的であった。友達との関わり方、コミュニケーションの図り方、基本的な生活習慣の習得など毎日繰り返すことで定着を図ることの重要性を再認識させられた。今回の研修で学んだことを今後の生徒指導や学習指導、また部活動指導に生かしていきたい。

## 5 特定課題研修 研修内容 キャリア教育の視点に立った音楽授業の展開について

中学校のまでの授業が歌唱活動に偏っている状況にある。歌唱の授業は、達成感や充実感を感じやすいものであるが、本校生徒にとっては、受け身的な活動といえる。音楽的学力の差のある生徒が関心・意欲をもって授業に臨めるよう、グループ活動を多用することで「個と集団とのかかわり」を持たせた。グループ活動により、お互いに交流し合い、認め合う音楽活動の展開を図ることで、豊かな感性や創造性を生むことを目指した。他者を認めつつ、他者と協働していく力を授業において身につけ、解釈したことや自分なりに判断したことを基に批評し合うなど、授業を通して異なる価値観を共有し、認め合うことをテーマとした。

音楽の諸活動において一番能力差のでやすい創作の活動において、生徒が意欲的に取り組むため題材構成を研究し、授業実践における生徒の姿とワークシートの記述や出来上がった作品を通して生徒の意欲の変容を明らかにした。生徒の音楽経験や生活経験を踏まえた共感しやすい題材を選び、小ステップでの学習活動を仕組んだことで、「わかった」「できた」を実感し、達成感や充実感を感じることができたと考える。また、音・音楽を通して「心の内なるもの」を表現することで、異なる価値観も共有することができた。

## 6 最後に

今回の研修では、生徒一人ひとりが自立していくため力をつけ、これからの社会をたくましく生き抜く力を身につけさせていかなければいけないということ強く感じ、特定課題研修としては、授業や学級経営ではキャリア教育の視点を常に念頭においていました。

最後の校外研修では、「教職10年経験者のまとめ」として、「私の教員としての使命(ミッション)」の作成や「キャリア振り返りシート」の作成が行われ、この10年研は自らをみつめ原点に戻るよい機会であったと振り返ることができました。社会の変動と共に教育もこれから大きな変革があると思うが、いつでも最高のサポートが生徒にできるように授業力や指導力を高め、生徒をよりよい方向へ導いていきたいと強く感じた。また、これからは周りの教員に適切な助言をすることが求められていると思うので、周りのことを十分に理解し影響を与えることのできる教員になっていきたい。

今回の研修を通して、自分自身が次第に授業以外の仕事を優先するようになり、本来一番大切であるはずの授業研究が疎かになっていることを痛感した。音楽の教師は学校に一人しかおらず、なかなか授業改善や題材の設定などうまくいかないことが多く、一人で悩むこともあった。授業の構築の仕方など他の先生の授業に参加させてもらうことで様々なヒントをもらうことができ、授業改善に生かすことができた。いかに生徒へ達成感を持たせられるかが肝要であり、ゴールイメージを持ち、指導内容の絞り込みを行うことが生徒の思考・判断につながると思った。これからも継続して指導力を高めること、得意分野作りに邁進していきたい。

自らの成長が生徒に還元されると思う。年次研修はこれで終了となるが、常にすべては生徒のために、という思いを持ち、謙虚さと素直さを忘れずこれからも研修に励んでいきたい。

最後に、貴重な時間を割いてご指導くださいました、校長先生、教頭先生を始め、多くの先生方よりご指導いただきありがとうございます。この場をお借りしてお礼申し上げます。

# 養護教諭教職5年経験者研修を終えて

養護教諭 豊嶋 亜紀子

## 1. はじめに

平成20年度、大館桂高校で教員としての第一歩を踏み出してから早5年が経過した。この5年間、校内外問わず多くの先生方からの数々の温かい励ましや手厚い御指導をいただきここまでやってこられたと強く感じる。今回の研修では、今自分に不足しているものを見つけ、今後成長するにあたってどの方向へ進むべきかの指針を示していただいた研修であったと感じている。

## 2. 研修の概要

I期 … 平成26年6月6日(木) 【総合教育センター、天王みどり学園】

- ・特別な支援を要する児童生徒の理解と支援(実地研修)
- ・教職5年経過教員に期待すること(講話)
- ・男女共同参画社会と学校教育(講義・演習)

II期 … 平成26年11月26日(火) 【総合教育センター】

- ・特別支援教育における支援チーム作りのために
- ・事例を通して見た不登校・いじめ・気になる行動への具体的な対応

<保健体育課担当研修>

1 … 平成26年8月5日(月) 【総合教育センター】

- ・養護教諭の特質を生かした保健教育への関わり方

2 … 平成26年9月2日(月) 【市立秋田総合病院】

- ・病院体験研修

## 3. 校外研修

### 【I期・II期】

養護学校での研修は、児童生徒が、様々な体験活動を通して自分が苦手としている分野を積極的に強化しようとしている姿がとても印象的であり、この姿勢は自分としても学ぶところが多かった。また先輩養護教諭からの「養護教諭としてあるべき姿」についての講話は、教員として過ごしてきた5年間を細かく振り返ることができたと共に、今後目指すべき所を示唆していただいた貴重な研修であった。特別支援教育、特に発達障害に関する研修は随所で取り上げられており、本校においてもその必要性を強く感じる。養護教諭として、また生徒を支援するチームの一員として生徒を支援する上でどのような役割を求められており、自分にはどのようなことができるのかを強く考えさせられる研修であった。

### 【保健体育科担当研修】

養護教諭に求められている専門性の一つである応急処置について、目から鱗の研修内容であった。「いざという時、あなたならどうしますか?」のテーマで行われた講習では、自分がいかに難しく考えすぎていたか、伝えてきていたかを実感させられた。有事の際、必ずしも養護教諭がいるわけではないことから、誰もがすぐに対応できる体制と準備作りの必要性を感じた研修であった。

## 4. おわりに

初任から早5年が経過し、今の自分には何ができて何ができていないのか、立ち止まって確認できたこの一年間は大変有意義であった。大館の地では、自校の先輩方からは日々様々な場面で御指導をいただき、その他にも小中高・養護学校の養護教諭の先輩方と勉強会などを通して交流する機会を多数得、多くの御指導・御助言いただくことができた。また、今まで関わってきた生徒1人1人も私を成長させてくれたと思う。この素晴らしい環境を最大限に活かし、今後も続く教職人生でさらに多くの生徒と関わっていく中で、養護教諭として日々励み成長していきたい。

# 高等学校初任者研修を振り返って

教諭 奈良 紳也

## 1 はじめに

校外での研修は、合計17日間行われた。総合教育センター主催が10日、高校教育課主催が7日である。また、校内での研修は合計100日間行われた。それらの中でも、特に参考になった研修の内容と感想等を記載する。

## 2 校外研修

### (1) 平成25年度高等学校初任者研修講座Ⅷ期

主な研修内容

- |        |   |
|--------|---|
| 10月30日 | ・授業展開の方法と実際<br>・本県の学校教育の現状と課題                                 |
| 10月31日 | ・いじめや不登校の理解と対応<br>・キャリア教育の推進<br>・教員のメンタルヘルス<br>・男女共同参画社会と学校教育 |

感想等

DVDで他の先生の授業を見て、各学校で生徒の雰囲気は大きく異なるということを感じた。それに伴い、それぞれの先生が指導のスピードや内容を考えて指導していることがわかった。また自分の授業を客観的に見ることにより改善すべき点を把握することもできよかった。

本県の学校教育の現状と課題についての講話では、小・中学校での全国学力テストでの好成绩から高校になると成績が下がっている理由の分析など新たに知る内容も多く大変勉強となった。その中でも、魅力ある授業が生徒を引きつけるためには非常に重要という話が特に印象に残った。授業準備を疎かにせず、日々の授業に全力で臨みたい。

二日目は講義・演習中心であった。いじめや不登校については、これらが起こってから対応するのではなく、日頃から生徒を観察し、事前に防ぐようにしていくことが重要だとわかった。キャリア教育については、普段の生徒対応の中でも行うことができることでもあり意識して行っていきたい。午後はメンタルヘルスについて講義を聴き、ストレスはため込まず上手に発散させたいと思った。また男女共同参画社会については、言葉の表現や性的少数者に対する対応など参考になる点が多くあったので、今後にかかしていきたい。

### (2) 平成25年度高等学校初任者研修「授業研修B」

- 主な研修内容
- ・生活体験発表会参加
  - ・授業参観
  - ・秋田明德館高等学校長講話
  - ・全体協議会

感想等

生活体験発表会に参加し、一言に「通信制・定時制学校に通う生徒」といっても、通っている理由は様々であるということがわかった。しかし、11人のスピーチを聴き全員に共通していることは、みな

学校に通う目的意識をしっかりと持っているという点である。例えば、専門学校や短大、大学に進学するために高校を卒業したいという生徒や、昔の自分を変えるために通っているという生徒などがいた。また、「夢や希望が原動力である」という言葉が全体のスピーチを通して最も印象に残った。本校の生徒の中には、将来の夢を具体的に持っていない生徒が少なからずいる。そのような生徒が一人でも多く、将来に夢や希望を持つことができるよう指導していきたい。

午後は授業を参観した。自分の想像以上に生徒は真面目に取り組んでいた。そして教師が授業の中で生徒との関わりを多く持っていたことも印象的であった。その中で、難解な言葉で説明せず、わかりやすい言葉で説明する、プロジェクターを利用する、生徒に実際に活動させてみるなどいろいろな工夫がされていた。今後、授業を構築する上で参考にしていきたい。

### (3) 平成 25 年度高等学校初任者研修講座Ⅴ期

- 主な研修内容
- ・中学校学習指導要領のポイント
  - ・付箋氏を用いたワークショップ型研究協議の進め方
  - ・高等学校の模擬授業と研究協議Ⅰ（生物Ⅰ「局所生体染色法」）
  - ・高等学校の模擬授業と研究協議Ⅱ（物理基礎「力とそのはたらき」）
  - ・中学校の模擬授業と研究協議（理科 1 分野「光の性質」）
  - ・秋田県総合教育センターの理科施設見学

#### 感想等

小・中学校の授業では、体験学習や実験を多く行い内容を具体的に学習している。しかし、高等学校では実験などは少なくなり知識や法則を覚えることが多く、小・中学校と比べれば抽象的な授業となっている。中学校の先生の模擬授業では、工夫された教材を使用し体験の中から疑問点を導くことができていた。

自分の模擬授業の協議では、中学校の先生から視覚的な教材(実物)があるとよいという意見がでた。生徒にとっても視覚的にとらえた方が、説明の意味も理解しやすいと思う。今後の授業の中で積極的に取り入れていきたい。

## 3 校内研修

### (1) 研究授業と研究協議Ⅲ

- 主な研修内容
- ・2年B組(22名) 生物「光合成のしくみ」
  - ・研究授業に対する協議

#### 感想等

今回はグループ活動を中心とした授業を行った。授業内では生徒から多くの意見引き出すことができ活発な活動となった。しかし、グループ活動に時間をかけ過ぎてしまい、まとめの部分まで終わらせることができなかった。また研究協議では、グループ活動に入るまでの時間が長いという意見もあった。今後は時間配分をよく考慮し、授業を構成していきたい。

今回は校内授業研修会の中で授業をさせて頂いたので、多くの先生方から貴重な意見を聞くことができた。簡潔な説明を心がける、生徒の理解しやすい言葉を使用して解説するなど、自分でも注意して取り組んでいる点に関しても指摘された。より生徒の目線となって授業を行っていきけるよう、日頃の授業から取り組んでいきたい。

## (2) 危機管理体制とその在り方

- 主な研修内容
- ・危機管理とは
  - ・危機管理体制の確保と点検
  - ・危機対応とそのポイント

### 感想等

危機に対する能力は個人的素養や経験則が大きく影響してくるため、先輩の教員が経験した事例を自分から聞くなど、少しでも多くの情報を取り入れ学んでいきたい。避難訓練や過去の事例を参考に学ぶ際は、常に自分ならどのように対応するか考えるなど「当事者」であるという意識を持ち実行していきたい。また事前準備が重要となるので、危機管理マニュアルに書かれていることを再度熟読し、災害時や事件・事故発生時にスムーズな対応ができるようにしていきたい。

## (3) 問題行動の事例研究

- 主な研修内容
- ・平成 25 年度に起こった問題行動の事例とその対応

### 感想等

今年度が起こった問題行動について、事例が発生した背景とその後の対応を中心に講話をして頂いた。問題行動には、必ずそれに至った背景がある。その背景を解き明かさなければ、本当の意味での解決にはならないという言葉が印象に残った。今回の事例に関しても親子関係が背景としてあり、その問題を解決するような対応をとることにより生徒の意識等が改善された。

今後、問題行動以外でも生徒の行動だけを見るのではなく、背景にまで目を傾けて生徒対応をしていきたい。

## 4 初任者研修を終えるにあたって

校外研修は、教科別での授業研修、特別支援学校訪問など非常に豊富な内容であった。指導主事の方々から学ぶことはもちろん、同期の初任者の先生方からも多くのことを学ばせていただいた。研修で学んだことを生かしている点もあれば、まだまだ未熟なところも多々ある。初任者研修のように年間を通して、多くの内容をまとめて研修することができる機会はないと思うが、今後も自分自身のステップアップに向け、積極的に研修を行っていきたい。

校内研修では、多くの分掌の仕事内容について学ぶことができた。まずは、今担当している分掌の仕事内容を理解し、分掌業務を円滑に進められるようにしたい。また、これからの教員生活の中で他の分掌を経験する際は、この初任者研修で学んだことを多く生かし、さらに多くの知識を身につけていきたい。

一年間という長期間にわたり、このような充実した研修をさせていただき、大変ありがたかった。この初任者研修で学んだことが、これからの私の教員としての確固たる地盤となると強く感じている。少しずつ自分の理想とする教師像に近づけるよう、謙虚な姿勢を忘れず、日々精進していきたい。

最後に、貴重な時間を割いてご指導くださいました、佐藤清悦校長先生始め、長岐祐輔教頭先生、指導教員の渡部洋子先生、教科指導員の奈良奈津子先生、そして一般指導や教科指導でご指導くださいました全ての職員の皆様に心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

## 編集後記

この度「研究紀要第29号」を発行することができました。御多忙中にもかかわらず、ご寄稿くださった多くの先生方に心から御礼申し上げます。この紀要が、皆様の今後の教育活動に御活用いただければ幸いです。

---

---

平成25年度研究紀要「かつら」第29号

発行日 平成26年3月発行

発行者 秋田県立大館桂高等学校

〒017-0876 秋田県大館市餅田二丁目3番1号

---

---